

『可愛い』 作：ポチ子

『可愛い』 作…ポチ子

可愛い子に生まれたかった。

可愛く生まれれば、

彼氏なんて作りたい放題だし、

買い物に行けばオマケをつけてもらえて、

何もしなくたって周りに人が集まる。

鏡を見ながら、

理想とは程遠い自分の顔にため息が出る。

メイクをしたって、

あの子より大きな目になるわけじゃないし、

鼻が高くなるわけでもない。

肌がきれいだって、

可愛い子の前じゃ武器になんてならない。

なんて不毛なんだろう。

あの子が羨ましい。

何もしてないくせに、

最初から持っているのがズルい。

美人は美人で苦労するとかいうけど、

それが嫌なら私にくれればいいのに。

実際、可愛い顔を捨てられるようになっても捨てないでしょ？

それなのに、苦勞してる風に装うのも腹が立つ。

可哀想にすれば、

声をかけてくれる人があなたにはいるけど、

私にはいない。

その子に何かされたわけじゃない。

でも、そこにいるだけで、

私の存在が否定された感じがする。

こんなのただの言いがかりだ。

でも、どうしても憎くてたまらない。